

2023年ベストプラクティス企業 意見交換会

私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心して結ぶ懸け橋
になります。

2023年11月24日

 全農物流株式会社

(1) 取組み経過について

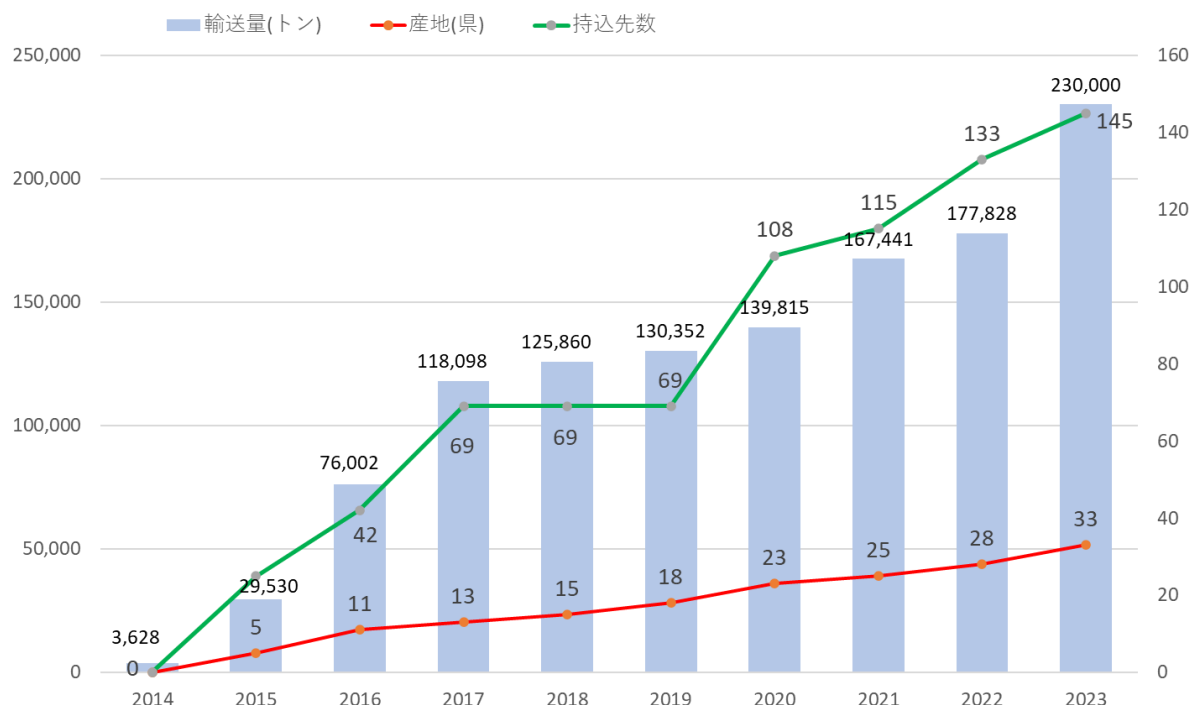
- ア. 消費地大手米穀卸への玄米納品車両の待機時間解消から、2010年度よりUPR(株)と協議・協力のもと、主要産地県～消費地大手米穀卸向けにプラスチックレンタルパレット輸送を開始しました。
- イ. 2014年度には、当社物流元受け主要5産地(青森、岩手、秋田、宮城、新潟)持込先25か所で本格的に取組みを開始しました。(2014年:3,628t、2015年29,530t)
- ウ. 産地・持込先を順次拡大し2016年度には76,000t、2017年度には118,000tまで拡大しました。
- エ. エリア拡大を展開しましたが、全農米穀部と協議し、2020年出来秋より当社主導から全農主導へ**全農パレチゼーション「全農PS」**として新たに取り組み開始し、産地・持込先数ともに大幅に拡大したものの、コロナ禍による販売不振により2020年度実績も大幅増には至りませんでした。
- オ. 2021年度以降、対象産地・持込先の拡大に努め、2023年9月時点では、**33道府県産地と145か所の持込先**に拡大しております。(2023年度見込み230,000t)
- カ. 2024年物流問題に対応すべく、更なる産地・持込先拡大に努め、手荷役作業の軽減、待機時間の短縮を目指します。

2. 米穀一貫パレット輸送の実績推移



(1) 実績推移について

- ア. 2014年度、5産地25持込先、本格運用開始
- イ. 2015年度、5産地25持込先、29,530トン
- ウ. 2019年度、18産地69持込先、130,352トン
- エ. 2020年度、23産地、108持込先、139,815トン(全農PS開始)
- オ. 2022年度、28産地、133持込先、177,828トン
- カ. 2023年度9月末、33産地、145持込先、113,498トン(見込み230,000トン)



対象産地 (当社元請・当社非元請)

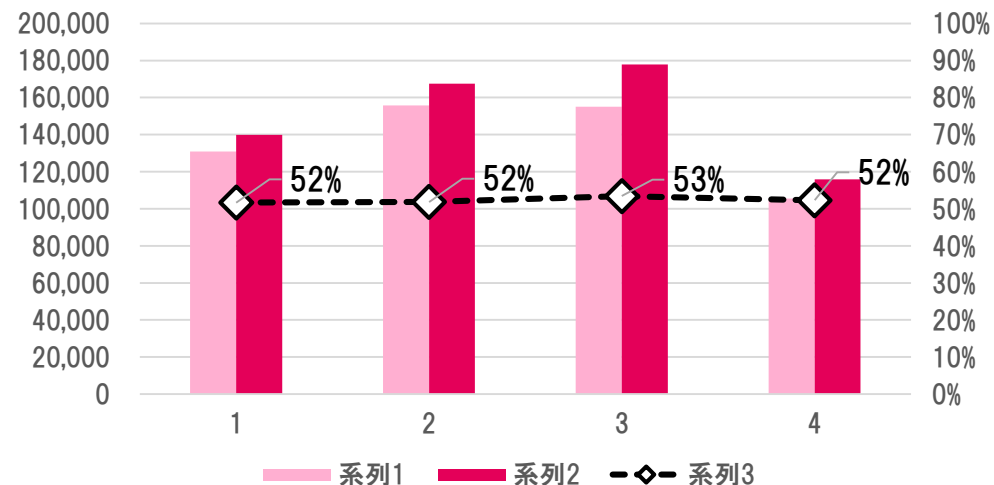
北海道・青森・岩手・宮城・
 秋田・福島・**山形**・茨城・
栃木・群馬・埼玉・千葉・
 新潟・富山・石川・長野・
岐阜・三重・滋賀・京都・
 鳥取・島根・岡山・広島・
 山口・徳島・香川・愛媛・
福岡・佐賀・大分・宮崎・
 鹿児島

3. 紙袋輸送における全農PS実施率(2020年度～2024年度9月まで)



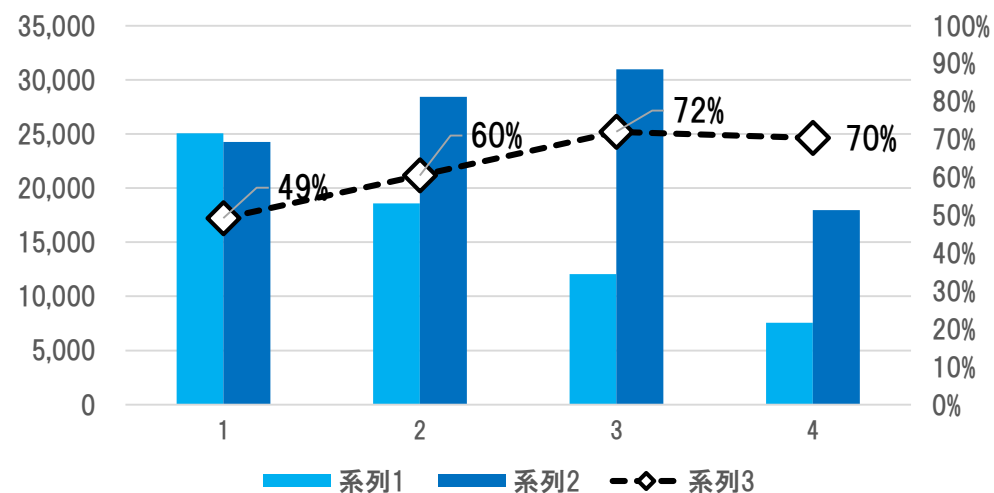
単位:トﾝ

全国	紙袋輸送 受託数量	紙袋バラ 納品数量	パレット 納品数量	実施率
2020年度	270,748	130,933	139,815	52%
2021年度	323,199	155,758	167,441	52%
2022年度	332,854	155,026	177,828	53%
2023年度9月末	221,425	105,572	115,853	52%



単位:トﾝ

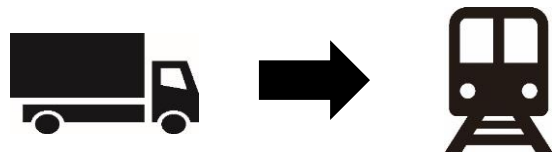
宮城県産	紙袋輸送 受託数量	紙袋バラ 納品数量	パレット 納品数量	実施率
2020年度	49,325	25,054	24,271	49%
2021年度	47,027	18,595	28,432	60%
2022年度	43,003	12,047	30,956	72%
2023年度9月末	25,515	7,566	17,949	70%



4. 米穀輸送におけるモーダルシフトについて

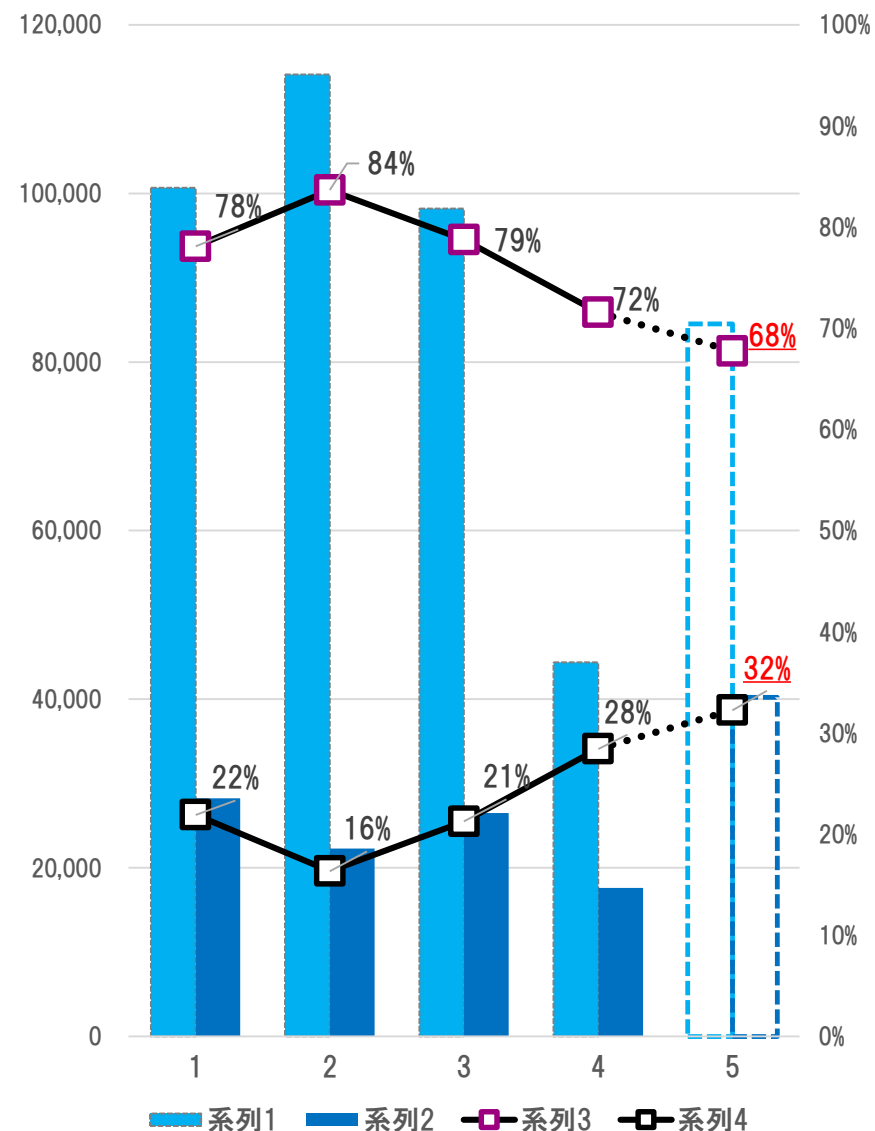


モーダルシフトとは、トラック等の自動車で行われている貨物輸送を環境負荷の小さい鉄道や船舶の利用へと転換することをいいます。



単位:ト

宮城県産	トラック	JR コンテナ	トラック	JR コンテナ
2020年度	100,675	28,245	78%	22%
2021年度	114,104	22,289	84%	16%
2022年度	98,212	26,519	79%	21%
2023年度 9月末	44,388	17,620	72%	28%
2024年度 見通し	84,512	40,219	68%	32%



**2024年4月以降は愛知県以西はJRコンテナが主軸
(2022年度対比+13,700ト増加の見通し)
トラック輸送の場合は翌日着から中一日運行へ転換**

5. 全農統一フレコンの基本方針および全国の配布実績・見込



<全農>

<全農物流>

手荷役のない物流を確立する観点から「紙袋からフレコンへの転換」をすすめる。

- ☞ 手荷役のないフレコン輸送拡大による輸送力確保
- ☞ 規格統一による回収率の向上、コストダウンの実現
- ☞ リターナブルシステムの確立による環境負荷低減
- ☞ 農産物検査規格におけるフレコン規格の収れんへの寄与

- ☞ 全農の基本方針に基づく連用
- ☞ 当社所有での配布、回収、清掃、再配布の管理
- ☞ 一括仕入れ、一括管理運用によるコストの低減
- ☞ リターナブルによる環境負荷軽減(全国16か所の清掃・保管管理施設)
- ☞ 保管・輸送品質への寄与

単位:枚

年産 (全国)	2021年度 当初配布計画 ①	2023年度 配布実績・見込 ②	計画差 ③=②-①
R3	125,000	(実績)113,450	▲11,550
R4	249,600	(実績)251,000	+1,400
R5	343,000	(見込)458,000	+115,000
R6	436,000	(見込)532,000	+96,000

6. 宮城県の全農統一フレコンの配布実績・見込



単位:枚

年産 (宮城県)	2021年度 当初配布計画 ①	2023年度 配布実績・見込 ②	計画差 ③=②-①
R3	2,000	(実績)1,100	-900
R4	51,500	(実績)39,889	-11,611
R5	91,600	(見込)106,000	+14,400
R6	96,000	(見込)120,000	+24,000